

2010年度第2回水防災セミナー ダムの検証

2010.11.1
名城大学名古屋駅前サテライト

水防災セミナーの紹介と 第2回セミナー開催趣旨と総合討論テーマ

名古屋大学大学院工学研究科

辻本 哲郎



2010年度第2回水防災セミナー：ダムの検証 (2010.11.1 名城大学名古屋駅前サテライト)

2009年度 水防災セミナー開始
(中部地区自然災害科学研究資料センター)
水防災への「学」の役割、イニシアティブ
伊勢湾台風50年... ←TNT危機管理計画策定の努力
行政の努力, 学^の役割(ファシリテーター), 住民への浸透
水防災学の再編(課題抽出)

4回開催(4月2日, 6月2日, 9月10日, 10月2日)

↓
課題抽出

2010年度 ←テーマ別, 勉強会形式

都市型水害 ←東海豪雨10年	9月28日
今後の治水対策 →ダムの検証	11月 1日
広域・大規模水害危機管理 ←TNT	12月20日
まちづくり(地域づくり)と地域防災力	2月
ゲリラ豪雨対応 ⇄Xバンドレーダ情報	3月

☆第1回 水防災セミナー

日時:2009年04月02日(木)13:00-17:00

場所:名古屋大学VBL 3階ベンチャーホール

①13:00-15:30 水災害に対する研究課題の抽出

1. 趣旨説明 辻本哲郎(名古屋大学)
2. 「ネットワーク型BCPを考える」 秀島栄三(名古屋工業大学)
3. 「都市内水氾濫解析モデルの構築と新たな防災活動の体験について」 武田 誠(中部大学)
4. 「「行政支援」を「行政サービス」に変えるための自助・共助・公助の役割」 柄谷友香(名城大学)
5. 「水防災に関する研究について」 戸田祐嗣(名古屋大学)

②15:45-16:45 TNTに関する話題

③16:45-17:00 今後の研究会の進め方

☆第2回 水防災セミナー

日時:2009年06月02日(火)13:30-17:00

場所:名古屋大学VBL 3階ベンチャーホール

- ①「ゲリラ豪雨災害にみるこれからの防災」 片田敏孝(群馬大学)
- ②「水防災研究の系統」 辻本哲郎(名古屋大学)

総合討議

テーマ「水防災の研究課題の抽出と系統化」

第3回 水防災セミナー

◆日時:2009年09月10日(木)13:30-17:00

◆場所:名古屋大学工学研究科9号館911講義室

◆話題提供:

「平成20年8月末豪雨の伊賀川災害調査～ゲリラ豪雨災害から考えること」
鷺見 哲也(大同大学)

「水害に対する地域防災力の要因分析」 瀧 健太郎(滋賀県河港課)

「防災対応～河川情報周知戦略(愛知県)～」 奥 信二氏(愛知県河川課)

◆総合討議:

テーマ「(仮)伊勢湾台風50年に当たって」

☆「水防災セミナー・伊勢湾台風50年特別企画」★

日時:2009年10月02日(金)13:00-17:00

場所:名古屋大学豊田講堂シンポジオン会議室

話題提供

- ①伊勢湾台風50年誌「語り継ぎ、伝える」
境 道男氏((社)中部建設協会)
 - ②「ハリケーンカトリーナ災害4年後調査-復旧・復興から新しい危機管戦略への展開-」
辻本哲郎(名古屋大学)
 - ③「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会組織と危機管理行動計画の策定」
河野龍男(中部地方整備局水害予報センター)
- 総合討議:「伊勢湾台風の経験・ハリケーンカトリーナの教訓から
伊勢湾ゼロメートル地帯を守る危機管理行動計画」

外力	対象地域	対応
計画(確率)規模 標準型 → 施設計画 流域累積→水系治水 地先時間降雨→雨水排除 非標準型 局所集中豪雨 (ゲリラ豪雨) 超過外力 (計画を超える) ↑ 温暖化・気候変動	都市部 都市型水害 郊外(農地+住宅地) 中山間地 広域低平地 (ゼロメートル地帯)	インフラ整備 水系治水 (連続堤防・ダム) 雨水排除 (下水道・農地湛水防除) 水害に強いまちづくり (地域づくり) 防災組織←ハザードマップ 水防 地先防災 避難勧告(指示)・救援 公助・共助・自助 広域危機管理 ←TNT 応急復旧 復興
	気象観測 ↓ 気象予測 ↓ 洪水予測 ↓ 水災予測	

都市型水害 ←東海豪雨10年, マニラ水害(←2010台風オンドイ)
 都市の構造脆弱性, 都市の社会脆弱性
 「都市型水害対策」

今後の治水対策 →ダムの検証
 治水のあり方有識者会議(中間とりまとめ)
 流域委員会(基本方針→整備計画)

広域・大規模水害危機管理 ←TNT
 伊勢湾台風の検証
 ハリケーンカトリーナ水害の検証
 広域危機管理行動計画(策定と訓練) 行政・市民
 気象予測→水災予測(Hazard)→被害予測(Risk)

ゲリラ豪雨対応 ⇔Xバンドレーダ情報
 局所的激甚豪雨の予測, 情報提供, 減災

まちづくり(地域づくり)と地域防災力(←安全安心まちづくり小委員会(社整審))
 都市・地域計画への反映(規制・誘導)
 水防・避難体制, 情報伝達
 住民の啓蒙・地域での取組み

2010年度第2回水防災セミナー
「ダムの検証」

「できるだけダムにたよらない治水」への政策転換(前原前国交大臣)
 ↓
今後の治水対策のあり方に関する有識者会議(2009.12.3スタート)
 宇野尚雄(堤防), 三本木健治(水法), 鈴木雅一(森林),
 田中淳(社会学・避難), 辻本哲郎(河川工学), 中川博次(座長,ダム),
 道上正規(土砂水理学), 森田朗(政治学), 山田正(水文学)

- 第1回 2009. 12. 3 規約等
- 第2回 2010. 1. 15 嶋津氏からヒアリング, 論点整理
- 第3回 2010. 1. 29 宮村氏からヒアリング, 論点整理
- 第4回 2010. 2. 8 委員(宇野・鈴木・田中・辻本)からの発表
- 第5回 2010. 2. 18 委員(三本木・道上・森田・山田)からの発表
- 第6回 2010. 3. 10 太田氏からヒアリング, 今後の治水政策
- 第7回 2010. 3. 26 意見募集結果, 幅広い治水対策の立案, 評価軸
- 第8回 2010. 4. 19 利水の観点, 個別ダム検証手順
- 第9回 2010. 5. 27 総合的な評価の考え方, 中間とりまとめ骨子

- 第10回 2010. 6. 16 ケーススタディー, 中間とりまとめたたき台
- 第11回 2010. 7. 13 中間とりまとめ案, 意見募集
- 第12回 2010. 9. 27 中間とりまとめ→国交大臣

↓
 2010. 9. 28
 中間とりまとめ公表
 ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目の策定通知
 (河川局長)
 ダム事業の検証に係る検討を指示(国土交通大臣→)

個別ダム検証
 「できるだけダムにたよらない」治水対策への政策転換
 第一歩として,
現在建設中のダムの個別検証→「ダムにたよらない治水対策」 **手法の検討**
 ↓
 困難な財政事情のもと継続・中止の判断
 (ダム以外の方策への代替性, 経済的効率向上(優先性))
 ↓
 「今後の治水対策のあり方」の議論←中間とりまとめ以降

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議の議論と「中間とりまとめ」

社会的背景(財政逼迫, 少子高齢化, 価値観の多様化, ...)
地球環境変化(温暖化, 持続性脅威, ...)

↓
今後の治水対策の方向性 ← **できるだけダムにたよらない治水への政策転換**

↓
個別ダムの検証 → 「今後の治水理念」(2011夏頃提言予定)

幅広い治水対策案の立案

ダムに依存しない方法を含む複数案の提示

これまでの評価軸に加えるべき新たな評価軸

時間的・財政的な制約等を加味

評価軸の優位性・限界性→ケーススタディでチェック

総合的な評価

中間とりまとめ

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 中間とりまとめ

第1章 今後の治水対策の方向性

財政逼迫等の社会情勢
治水目標
整備水準を上回る洪水への対応
流域と一体となった治水対策
既設施設の有効活用・機能向上

第2章 個別ダム検証の理念

社会情勢などの背景認識
基本的考え方

合理性(科学的説明力), 地域間衡平性, 透明性→**検証枠組提供**

現況計画の把握(総事業費, 堆砂計画, 洪水実績,...)

治水, 利水, その他の機能確保: 整備計画のレベル→明確化

計画規模を超える状況への対応にも言及

複数案(流域対応を含む)

現状(進捗状況)からの評価

目的別の(総合)評価→総合評価

第3章 個別ダム検証の進め方

国交大臣が検証を指示(要請)

↓
検証の検討主体による検討→対応方針(案)

↓
国交大臣が継続・中止の判断

平成22年度に事業が行われるダム事業(導水路に関する事業等を含む)
136事業(145施設)のうち、

- ・既に、ダムに頼らない治水対策の検討が進んでいるもの
- ・既存施設の機能増強を目的としたもの
- ・ダム本體工事の契約を行っているもの

のいずれかに該当するものを除くすべてのダム事業(83事業(84施設))

検証が終了するまで、新たな段階への予算措置を講じない。

「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領」を適用、今回の検証に関する**再評価実施要領細目**を新たに定める。

「関係地方公共団体からなる検討の場」を設置・情報公開
学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長、関係利水者の意見を聴く

第4章 検証対象ダム事業等の点検

流域及び河川の概要とくに現行の治水計画、利水計画
検証対象ダム事業の概要(目的、経緯、進捗状況)

事業が進む過程で、

調査の精度が向上したり、補償額が確定したりすることによる事業費や工期等の変更
過去の洪水実績など計画に用いられてきたデータ等の再検討が出てくること。

(工期、総事業費、堆砂計画等)

第5章 複数の治水対策案の立案

第6章 概略評価による治水対策案の抽出

第7章 評価軸

第8章 利水等の観点からの検討

治水目的だけでなく、新規利水、流水の正常な機能の維持の観点からも、第5章～第7章そして第9章の評価を行う

第9章 総合的な評価の考え方

9.1 治水目的での総合評価←様々な評価軸での評価の総合

予算に関わる評価軸の優先

9.2 検証対象ダム of 総合的な評価

←検証ダムの様々な目的からみた評価の総合

4章から9章が検討主体による検討のプロセス

点検(4章)

複数案の提案・必要に応じて概略評価(治水について5・6章)

評価軸ごとの評価(治水について7章)

様々な評価軸の評価の総合(9.1)

5.6.7章の手順でその他の機能(目的)についても評価(8章)

目的間もあわせた検証対象ダムの総合評価(9.2)

第10章 検討結果の報告等

10.1 (検討主体から本省への)検討結果報告

10.2 国交大臣の判断

有識者会議の意見・国交大臣の再検討指示(要請)・

本省による「対応方針」の決定

10.3 法令にもとづく手続き

河川整備計画変更等

本セミナーでの討議対象:

ダム検証の基本的スタンス

治水対策の政策転換→ダム検証...社会背景の認識

ダム検証の理念

背景

基本条件

検証のフロー

検証の各プロセスでの技術的課題

(1)代替案と技術的課題

(2)評価軸の提案

(3)目的別評価

(4)様々な機能の総合化による総合評価